

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：共通教育科

資格：准教授

氏名：古野 貢

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
| 日本中世史、博物館、大学史 | 室町幕府、守護、国人、地域、史料、博物館、学芸員、資料、大学史 |
| 学位 | 最終学歴 |
| 博士（文学） | 大阪市立大学大学院 文学研究科 日本史学専攻 博士課程 満期退学 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|-------------------|-----------------|--|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 1. 歴史学 | 2015年4月～現在 | 理系学生を対象に、物事を歴史的に考える方法論を提示する。歴史学で用いる史料（資料）や、人々の生活を支えるさまざまな技術が、歴史的蓄積のうえに成立していることを解説し、理系分野にとって歴史的思考が重要であることを理解させる。 |
| 2. 日本史特講IV | 2014年4月～2015年3月 | 近年研究の深化が著しい14～16世紀の政治社会構造について、都市論・流通論・文化論をはじめ、建築史や考古学、地理学など隣接諸分野との協業によって得られた成果も組み込み、権力構造論の観点から論じる。 |
| 3. 記憶からたどる鳴尾の歴史 | 2013年4月～2015年3月 | 通学する大学が所在する地域（鳴尾地域）歴史的にとらえることで、大学、地域への愛着を深めることを目的とする。特に地域に残る「記憶」をもとに、学生自身が課題設定、取材・調査、まとめを行い、発表する。アクティブラーニングの実践として行っている。 |
| 4. モノから探る鳴尾の歴史 | 2013年4月～2015年3月 | 通学する大学が所在する地域（鳴尾地域）歴史的にとらえることで、大学、地域への愛着を深めることを目的とする。特に地域に残る「モノ」を対象に、学生自身が課題設定、取材・調査、まとめを行い、発表する。アクティブラーニングの実践として行っている。 |
| 5. 博物館実習 | 2013年4月～現在 | 博物館学芸員資格を取得するためには、学外実習が必修である。学外機関での実習に必要な事柄、手続き等について指導する。 |
| 6. 日本史II | 2012年4月2014年3月 | 細川氏を主たる例として、近年研究の深化が著しい14～16世紀の畿内地域の政治構造について解説した。都市史・流通史・文化史に加え、建築史や考古学、地理学など隣接諸分野との協業によって得られた成果も反映させた。 |
| 7. 博物館概論 | 2011年4月～現在 | 博物館学芸員資格取得のために必要不可欠な知識を身につけるために、博物館の意義、機能、役割、法規、歴史、さまざまな博物館の種類などについて、具体的事例をあげながら解説する。 |
| 8. 日本美術史 | 2010年9月～2011年3月 | 日本美術の展開・発展について、時代を追いながら解説した。中国大陸などから伝来した外的要因と、国内での発展にかかわる内的要因について、美術作品の写真や実物を見ながら理解を深められるようにした。 |
| 9. 日本史要説 | 2010年4月～2010年9月 | 歴史文化学科1年生を対象に、これから日本史を専攻する学生が日本史の意義やおもしろさ、興味関心を拡大できるように、歴史の見方、考え方の糸口を提示する。地理的環境からみた日本の歴史、風土と生活文化、年中行事の意味、戦争と平和、日本における女性の歴史などをオムニバスのに行う。 |
| 10. 社会科指導法 | 2009年4月～2010年3月 | 教育学科3年生の「社会科指導法」において、「地域社会」（3・4年）、「国土・地理」（5年）、「歴史・政治・国際社会」（6年）の各分野で、学生自身が教員になったとき、何を課題として授業をおこなうのか、またどのような問題意識を持って社会科教育に携わろうとするのかについてレポートを作成する。レポート内容を授業中に発表させ、内容とともに発表の方法についても議論を重ねることで、それぞれが持つ課題・問題意識を受講生共通のものとした。 |
| 11. 日本史II | 2008年4月～2008年8月 | 細川氏を主たる例として、近年研究の深化が著しい14～16世紀の畿内地域の政治構造について解説した。都市史・流通史・文化史に加え、建築史や考古学、地理学など隣接諸分野との協業によって得られた成果も反映させた。 |
| 12. 社会文化演習 | 2008年4月～2008年8月 | 国際文化学部日本語コースの留学生の卒業研究準備のため、日本語で書かれた論文を輪読し、論文作成の技術と方法、日本語での表現の仕方を身につけることに努めた。文章表現、使用する語句などについても解説・指導した。 |
| 13. アジア研究入門 | 2008年4月～2008年8月 | 国際文化学部日本語コースの留学生向けに、日本の言 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|---|-----------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 教育方法の実践例 | | |
| 14. 文化史 | 2008年～現在 | 語・文化・社会・歴史などを研究するための基礎的知識と学習方法を身につけさせる。学内外の見学、さまざまな事柄についての自国と日本との違いについて、毎時間小レポートを作成し、発表させた。 |
| 15. 生活指導・進路指導の研究 | 2007年9月2008年3月 | 茶道を例に、現代に伝わる日本の伝統文化の源流を探る。茶道の歴史をはじめ、茶そのものの伝来や宗教・思想的背景にも注意をはらい、幅広い視野から文化史を理解することに努める。 |
| 16. 日本史通論Ⅱ | 2007年4月2009年3月 | 学校教員として、生徒指導に対する心構えや方法論、また生徒の進路に対する向き合い方、そのための適切な指導方法などについて解説した。 |
| 17. 歴史学Ⅰ・Ⅱ | 2007年4月2010年8月 | 近年研究の深化が著しい14～16世紀の畿内地域の政治構造について、その一翼を担う自身の細川氏研究を中心に論じる。都市論・流通論・文化論をはじめ、建築史や考古学、地理学など隣接諸分野との協業によって得られた成果も組み込む。 |
| 18. 見てわかる日本の文化 (→2010年度より「日本の画像文化論」に名称変更) | 2007年4月～現在 | 工学部の学生を対象に、物事を歴史的に考える方法論を提示する。歴史学で用いる史料(資料)や、人々の生活を支えるさまざまな技術が、歴史的蓄積のうえに成立していることを解説することで、工学分野にとって歴史的思考が重要であることを理解させる。 |
| 19. 日本史のなかの女性たち | 2007年4月～現在 | 絵巻物、地図、屏風絵など、描かれた資料を用いて、日本社会の歴史や文化、さまざまな階層の人々の生活・風俗などについて解説し、日本文化の理解に努める。2011年4月より科目名を「日本の画像文化論」に変更。 |
| 20. 史料講読 | 2006年9月2007年3月 | 女性が日本の歴史のなかで果たしてきた役割・機能について、ジェンダーの考え方も踏まえつつ解説する。また著名な歴史上の人物だけではなく、一般の人々の活動や生活についても目配りし、幅広い視野からの女性史の理解に努める。 |
| 21. 博物館実習 | 2006年4月～現在 | 文学部歴史文化学科日本史専攻の学生を対象に、史料読解の方法を解説する。事項の調べ方、解釈の可能性、発表の方法まで細かく指導する。 |
| 22. 博物館資料論 | 2006年4月～現在 | 博物館資料論と同様、展示を実践的に行うことで、学芸員として必要な能力を身につけ、仕事の内容を理解させる。また博物館の実態を理解するため、実際に博物館を訪問し、バックヤードや施設、設備、について見学する。訪問先学芸員に説明・指導を依頼し、博学連携のあり方にも目を向ける。 |
| 23. 博物館経営論・情報論 | 2006年4月～現在 | 博物館学芸員としての資料を用いた業務を実践的に体験するため、大学資料館の資料を用いて、展示会を実践する。学生自らテーマを決め、調査・研究・展示準備、解説やパンフレットの作成を行う。資料への理解や展示作成の自主性、協調性、創作的意欲、工夫、観覧者への気配りなどの能力の向上を図る。 |
| 24. 教科社会 | 2006年4月～2010年3月 | 博物館における経営や運営、教育普及活動、学校との連携、および情報・サービスの重要性について、現代的、かつ身近な例をあげながら解説する。 |
| 25. 日本文化論 | 2004年4月～2005年3月 | 日本中世史を例として取り上げ、社会科(特に歴史)が暗記科目ではなく、考える科目であることを喚起し、その方法論を各自実践できるよう、多くの質問を投げかける。歴史的事象の原因や背景、また将来への見通しなども考察・検討の対象とする。 |
| 26. 現代社会論 | 2004年4月～2005年3月 | 古代から現代までのさまざまな日本文化を、絵図や絵巻、写真などを用いて、視覚に訴える方法で解説を加えた。 |
| 27. 古文書学 | 2003年4月～現在 | 日本人の一生を、通過儀式や年中行事への取り組みから説明し、現代人の生活と比較検討した。 |
| | | 既成の刊行された史料集ではなく、自ら調査し、まとめた古文書の写しを用いて、より即物的に解説方法を学び、史料評価についての解説を行う。 |
| 2 作成した教科書、教材 | | |
| 1. 『中世後期細川氏の権力構造』 | 2008年12月 | 室町幕府一守護体制のもとで有力な地位を築き、同体制を支えつつも最終的に解体へ導いた細川氏の権力構造を明らかにした単著。2009年度大阪市立大学「日本史通論Ⅱ」で本格的に教材として使用した。 |
| 2. 『春日大社南郷目代 今西家文書』 | 2004年3月 | 春日者領撰津国垂水西牧の目代を務めた今西家に伝来した文書史料集(後掲「著書」欄に掲載)。史料全点をカラー写真で掲載した。現在の大阪府豊中市の史料であるため、学生の地元意識を喚起し、解説に意欲を持たせること目的に使用している。 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 「中世後期の畿内支配構造と西岡衆・物集女氏」(於: 向日市歴史資料館) | 2014年3月 | 細川氏の幕府、畿内支配を接続する役割を果たした南山城の国衆である西岡衆、物集女氏について、その存在 |

| 教育上の能力に関する事項 | | |
|--|----------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 2. 「戦国武将三好一族を学ぼう 阿波での三好氏の動向」 (於：大阪歴史博物館) | 2014年10月 | 形態、政治史的位置づけ等について論じた。 近畿とくしま会主催の歴史講演会。守護細川氏被官として畿内地域で活躍する三好氏の、阿波時代の存在形態について論じた。 |
| 3. 「『細川両家記』にみる細川氏・三好氏」 (於：徳島市立徳島城博物館) | 2011年9月 | 江戸時代初期に作成された軍記史料『細川両家記』を事例に、描かれた内容を一次史料と対照して事実関係を示すことで、正確な歴史像の構築における軍記史料の評価、扱い方を論じた。 |
| 4. 「戦国時代の和泉」 (於：岸和田市立博物館) | 2010年2月 | 戦国期における和泉国の歴史的展開について、堺から岸和田への政治・経済の拠点の移動という視点から整理し、現在に至る社会構造の起源について論じた。 |
| 5. 「北摂国人、戦国期の転回」 (於：吹田市立博物館) | 2009年10月 | 戦国期の社会動乱のなかで自家の存続と維持を求めて活動した北摂国人の動向を、吹田氏を軸に検討し、講演した。 |
| 6. 「戦国時代の武家権力と根来寺」 (於：歴史館いづみさの) | 2008年11月 | 武家権力と根来寺の対立が泉佐野市域与えた影響を、和泉守護細川氏・織田信長・豊臣秀吉の各段階に分けて整理し、それぞれの段階において地域社会がとった権力との関係について論じた。 |
| 7. 「原田城と原田右衛門尉」 (於：日本民家集落博物館) | 2007年2月 | 豊中市域に供養塔が残る原田右衛門を軸に、中世初頭から近世にかけての市域の歴史状況や、現在土塁の一部が残る原田城の評価について講演した。 |
| 8. 「歴史研究からみた資料の収集と保存」 (於：武庫川女子大学) | 2006年7月 | 大学図書館司書に対し、歴史研究の立場からみた資料収集・保存の現状と課題、および考え方や実践方法について講演した。 |
| 9. 「戦国期摂津・山城と細川氏」 (於：大山崎歴史民俗資料館) | 2006年11月 | 摂津国守護であり、室町幕府管領として大きな権力をふるった細川氏による、摂津・山城国境地域である大山崎への政治的関与と畿内での権力化、およびその解体過程について論じた。 |
| 4 その他 | | |
| 1. 「中世後期における地域支配権力の転回」 (於：浅口市中央公民館) | 2015年2月 | 岡山県西部に位置する浅口市地域を対象に、中世後期段階での地域支配権力の転回を、守護に系譜を持つ細川氏が戦国期大名権力毛利氏に包摂される過程から論じた。 |
| 2. 「丹波守護細川氏について」 (於：丹波の森公苑) | 2015年10月 | 中世後期丹波守護であった細川氏の政治的位置づけと、丹波国内支配における地域権力との関係について、史料をもとに解説し、地域的特性についても言及した。 |
| 3. 「中世豊中の城郭と戦争」 (於：豊中市民文化センター) | 2013年11月 | 豊中市域に所在する城郭が、中世段階における戦争にどのように関わっていたのかについて、市域城郭についての史料、発掘調査成果等をもとに論じた。 |
| 4. 「明智光秀と本能寺の変」 (於：三田市中央公民館) | 2011年8月 | 本能寺の変について、明智光秀自身の決断と行動とされている事柄が不確実な史料に基づくものであることを示し、確実な史料に基づく最新の研究水準による変の評価について論じた。 |
| 5. 「光秀の饗応と本能寺の変」 (於：神戸新聞文化センター) | 2011年2月 | 本能寺の変の原因を事例とし、根強い怨恨説は不確実な史料に基づく俗説に近いことを論じ、確実な史料に基づく立論の必要性を示した。あわせて現在の研究水準にもとづく変の原因について論じた。 |
| 6. 「摂津の中世社会－室町幕府・守護・国人と原田－」 (於：豊中市指定文化財原田城・国登録文化財旧羽室家住宅) | 2009年11月 | 豊中市指定文化財原田城・国登録文化財旧羽室家住宅オープニングイベントでの講演。展開が複雑でわかりにくい摂津国の中世(室町期～戦国時代)について、原田城・原田氏など地域社会からの視点で整理しながら論じた。 |
| 7. 「日野富子と応仁・文明の乱」 (於：近鉄文化サロン) | 2008年11月 | 大阪市立大学と近鉄文化サロンの共催講演会。女性からみた日本の歴史像を描こうとするもの。悪女として評価されることが多い日野富子が、15世紀後半の社会で果たした役割について講演した。 |
| 8. 「戦国期の伊丹氏と伊丹－摂津支配の変遷と伊丹氏－」 (於：ブリュワリービレッジ長寿蔵) | 2006年11月 | 戦国期における摂津支配について、国人伊丹氏の動向を主軸に、政治社会構造の変質について講演した。 |
| 9. 「戦国期細川氏権力と『細川両家記』」 (於：京都市立北公民館) | 2005年11月 | 京都の歴史研究グループ「早雲」例会での講演。軍記史料『細川両家記』をもとに、中世後期の畿内政治状況について解説した。 |
| 10. 「戦乱の富松から京都をのぞむ」 (於：富松神社) | 2005年10月 | 史跡に指定された兵庫県尼崎市富松城跡の保存にかかわる市民グループへの講演。中世後期の富松城を文献史料から描き出した。 |
| 職務上の実績に関する事項 | | |
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 1. 博物館学芸員資格 | 1999年3月 | |
| 2. 高等学校教諭専修免許(公民) | 1996年3月 | 兵庫県教育委員会 平七高専第212号 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 1 資格、免許 | | |
| 3. 中学校教諭専修免許（社会） | 1996年3月 | 兵庫県教育委員会 平七中専第125号 |
| 4. 図書館司書教諭資格 | 1992年3月 | |
| 5. 高等学校教諭一種免許（社会） | 1992年3月 | 兵庫県教育委員会 平三高一第1352号 |
| 6. 中学校教諭一種免許（社会） | 1992年3月 | 兵庫県教育委員会 平三中一第1251号 |
| 7. 学校図書館司書教諭資格 | 1992年3月 | |
| 2 特許等 | | |
| 3 実務の経験を有する者についての特記事項 | | |
| 1. 地域の歴史の調査、地域社会との連携にかかわる実践 | 2001年6月～2006年3月 | 豊中市教育委員会地域教育振興課文化財保護係郷土資料室の文献史料担当として、豊中市域の歴史史料の調査や、報告書の作成・刊行、市民への情報提供などを行った。最重要成果としては、鎌倉時代から伝来する史料（「今西家文書」）の悉皆調査を行ったことがあげられる。また市民による地元のあり方を考えるサークルの立ち上げにもかわり、市域に所在する城郭跡（原田城）の豊中市による買い上げ・保存・活用之道筋をたてた。 |
| 2. 社会教育施設（岡山県青少年教育センター閑谷学校）での社会教育の実践 | 1992年4月1994年3月 | 社会教育施設である岡山県青少年教育センター閑谷学校職員として、研修担当や環境整備を行う。国宝閑谷学校（日本最初の庶民教育の場）講堂での論語素読、野外活動（キャンプ、オリエンテーリングなど）を通じ、小・中学校を中心とする諸団体に社会性や協調性を身につけさせることを目指した。 |
| 4 その他 | | |
| 1. FD推進委員会主催勉強会 報告 | 2017年2月16日開催 | 本学FD推進委員会主催勉強会「学生が学ぶ喜びを感じる授業とは？ ～TeachingからLearningへの転換を図るために～」において、「学生の主体的な学びを促進するための共通教育科目における工夫と成果」と題して報告した。 |
| 2. 第3回「能動的学修の教員研修リーダー講座」修了 | 2016年10月29日認定 | 全国大学実務教育協会取材の研修会（3回）に参加し、能動的学修の授業デザインや技法、事前・事後学修の効果的な方法などについて学んだ。自ら体験しながら取得する形式。 |
| 3. 「石山合戦・木津川合戦」（於：毎日文化センター） | 2015年9月 | 毎日新聞文化センター「なにわ再発見講座」。織田信長と本願寺との戦いである石山合戦（大阪戦争）とそのトピックスとなる木津川合戦について、その詳細を紹介し、歴史的評価を提示した。 |
| 4. 「漂流民からみた幕末—国際情勢と日本の道—」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2015年8月 | 江戸幕末の漂流民の帰国までの記録をもとに、幕末日本の対外政策や自国民への対応など、近代国家成立前夜の日本の姿を論じ、現代に通じる国家の姿を見出した。 |
| 5. 「戦国時代の摂津地方」（於：阪神シニアカレッジ） | 2015年6月 | 戦国時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の面から論じた。 |
| 6. 戦国時代の摂津地方」（於：阪神シニアカレッジ） | 2015年2月 | 戦国時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の面から論じた。 |
| 7. 「室町時代の摂津地方」（於：阪神シニアカレッジ） | 2015年2月 | 室町時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の側面から論じた。 |
| 8. 宮水学園マスター講座「戦国時代の諸相—生活・文化・人—」（於：西宮市民会館） | 2015年10月～2016年2月 | 戦争と政治によって形作られた時代とのイメージの強い日本の戦国時代を、多様な側面から検討することで、新たな見方・評価を試みる。「宮水学園マスター講座」としての開講。 |
| 9. 「中世古文書の世界」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2015年1月 | 中世古文書を学ぶ際、最低限必要な知識や情報を伝え、古文書を学び始める際の間口を広くする試みを行った。 |
| 10. 「中世後期の摂津・和泉地方」（於：大阪府高齢者大学校） | 2014年6月 | 室町・戦国期の摂津・和泉地域の社会的・政治的・文化的特質を示し、当該期における位置づけ・評価を示した。 |
| 11. 「室町時代の摂津地方」（於：阪神シニアカレッジ） | 2014年2月 | 室町時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の側面から論じた。 |
| 12. 「戦国時代の摂津地方」（於：阪神シニアカレッジ） | 2014年2月 | 戦国時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の面から論じた。 |
| 13. 「伊賀上野城」（神戸新聞文化センター バスツアー） | 2014年12月 | 神戸新聞文化センターの現地体験講座として、伊賀上野城をバスで訪れ、城の構造、特質等について解説した。 |
| 14. 「鳥取城 黒田官兵衛の戦いと城」（於：やしろ鴨川の郷） | 2013年9月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。鳥取城を対象に、秀吉権力下での官兵衛の働きを紹介した。 |
| 15. 「有岡城 黒田官兵衛の戦いと城」（於：やしろ鴨川の郷） | 2013年8月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。有岡城を対象に、官兵衛が軍師となる契機となる戦いを紹介した。 |
| 16. 「戦国時代の謎を解く」（於：毎日新聞文化センター） | 2013年7月～現在 | 戦国時代の戦闘について、研究で明らかとなってきた点を紹介しながら、現在の水準を紹介する連続講座。 |

職務上の実績に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|--|----------|---|
| 4 その他 | | |
| 17. 「三木城 黒田官兵衛の戦いと城」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年7月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。三木城を対象に、秀吉権力下での官兵衛の戦いを紹介した。 |
| 18. 「中世後期の摂津・和泉地方」(於：大阪府高齢者大学校) | 2013年6月 | 室町・戦国期の摂津・和泉地域の社会的・政治的・文化的特質を示し、当該期における位置づけ・評価を示した。 |
| 19. 「黒田官兵衛の戦いと城」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年6月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。姫路城を対象に、秀吉権力下で軍師として加わる官兵衛の動向を紹介した。 |
| 20. 「長篠の戦い 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年4月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。長篠の戦いを対象に、戦闘の変化、特質について論じた。 |
| 21. 「木津川の戦い 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年3月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。木津川の戦いを対象に、海戦の特質、その後の展開について論じた。 |
| 22. 「室町時代の摂津地方」(於：阪神シニアカレッジ) | 2013年2月 | 室町時代の摂津地域の特質について、政治・経済・流通・文化等の側面から論じた。 |
| 23. 「歴史の描かれ方」(於：阪神シニアカレッジ) | 2013年2月 | NHK大河ドラマで描かれた本能寺の変を按察して鑑賞しながら、歴史的事実が映像でどのように描かれているのかについて検討を加えた。 |
| 24. 「三木合戦 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年2月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。三木合戦を対象に、戦闘の様子、地元への影響等について論じた。 |
| 25. 「戦国時代の父子伝説 黒田官兵衛・長政」(於：毎日新聞文化センター) | 2013年12月 | 戦国時代を二代にわたって生きた人々に着目し、その要因を探る文化センター主催の連続講座。黒田官兵衛・長政父子を担当。 |
| 26. 「備中松山城・備中高松城」(神戸新聞文化センター バスツアー) | 2013年12月 | 神戸新聞文化センターの現地体験講座として、備中松山城・備中高松城をバスで訪れ、城の構造、特質等について解説した。 |
| 27. 「中津城・福岡城 黒田官兵衛の戦いと城」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年11月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。中津城・福岡城を対象に、官兵衛晩年の戦いを紹介した。 |
| 28. 「備中高松城 黒田官兵衛の戦いと城」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年10月 | やしろ鴨川の郷における「黒田官兵衛の戦いと城」講座。備中高松城を対象に、官兵衛が「軍師」として著名となる点を紹介した。 |
| 29. 「川中島の戦い 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2013年1月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。川中島の戦いを対象に、戦闘の意義、特質について論じた。 |
| 30. 「古文書学事始め」(於：伊丹市立ラスタホール) | 2012年9月 | 古文書を学ぶ際、最低限必要と思われる知識や情報を伝え、古文書を学び始める際の間口を広くする試みを行った。 |
| 31. 「中世後期の摂津・和泉地方」(於：大阪府高齢者大学校) | 2012年5月 | 室町・戦国期の摂津・和泉地域の社会的・政治的・文化的特質を示し、当該期における位置づけ・評価を示した。 |
| 32. 「歴史の描かれ方ー本能寺の変ー」(於：阪神シニアカレッジ) | 2012年2月 | NHK大河ドラマで描かれた本能寺の変を按察して鑑賞しながら、歴史的事実が映像でどのように描かれているのかについて検討を加えた。 |
| 33. 「姉川の戦い 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2012年12月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。姉川の戦いを対象に、戦闘の特質、その後の歴史的展開について論じた。 |
| 34. 「安土城」(神戸新聞文化センター バスツアー) | 2012年12月 | 神戸新聞文化センターの現地体験講座として、安土城をバスで訪れ、城の構造、特質等について解説した。 |
| 35. 「桶狭間の合戦 日本の戦闘」(於：やしろ鴨川の郷) | 2012年11月 | やしろ鴨川の郷における「日本の戦闘」講座。桶狭間の合戦を対象に、戦闘の様子、現在の研究上の評価等について論じた。 |
| 36. 「室町幕府一守護体制の展開と猪名川町域」(於：猪名川町中央公民館) | 2012年11月 | 猪名川町リバグレス講座の一環。中世後期段階で、室町幕府一守護体制の展開が町域の歴史的展開に与えた影響について論じた。 |
| 37. 「猪名川流域の中世寺院と地域社会」(於：猪名川町中央公民館) | 2012年10月 | 猪名川町リバグレス講座の一環。猪名川流域に建立された中世寺院の展開が地域社会に与えた影響について論じた。 |
| 38. 「江戸時代の文化と庶民の力」(於：阪神シニアカレッジ) | 2012年1月 | 北摂地方を中心に、江戸時代に発達した文化の諸相と、それを支えた庶民の力と環境について論じた。 |
| 39. 「豊中の古文書をひもとく」(於：豊中市立千里公民館) | 2011年6月 | 豊中市立千里公民館での古文書講座の2回目。古文書初心者向けに市域に所在する近世古文書を素材に、文字の崩され方、文意、時代的背景、古文書の機能などについて解説した。 |
| 40. 「豊中の古文書をひもとく」(於：豊中市立千里公民館) | 2011年6月 | 豊中市立千里公民館での古文書講座。古文書初心者向けに市域に所在する中世古文書を素材に、文字の崩され方、文意、時代的背景、古文書の機能などについて解説し |

職務上の実績に関する事項

| 事項 | 年月日 | 概要 |
|--|-------------------|--|
| 4 その他 | | |
| 41. 「茶の湯成立へー室町幕府と禅一」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2011年11月 | た。 中世後期から近世にかけて文化的にも政治的にも大きな影響力をもった茶の湯の淵源に禅宗があったことを踏まえ、仏教と当時の文化との深い関係について論じた。 |
| 42. 「茶の湯と天文文化」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2011年11月 | 茶の湯に代表される会所の文化が中世後期の政治的統合の手段として発達・成立した天文期の特質について論じた。 |
| 43. 「茶の湯政道」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2011年11月 | 中世から近世への転換期に、茶の湯が果たした政治的役割について、天下人の取り入れ方から論じた。 |
| 44. “・「日本の城郭」（於：神戸新聞文化センター三宮、加古川） | 2010年9月～現在 | 「その美と戦国激動史」、「戦国から近世初期社会へ」をサブテーマに、戦国時代から近世初期に機能した城郭の歴史、縄張、特質などの理解を深めることを目的とした連続講座。 |
| 45. 「戦国時代の横顔」（於：神戸新聞文化センター三宮） | 2010年4月～現在 | 「戦国武将の虚構と真実」、「名参謀といわれた武将たち」、「戦国時代の女性たち」をサブテーマに、戦国時代に活躍した人物、政治体制の変化、地域社会の変容、文化の展開などさまざまな観点から、戦国時代理解を深めることを目的とした連続講座。 |
| 46. “・「幕末日本の国際認識と人々」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2010年12月 | 江戸幕末の漂流民の漂流から帰国までの記録をもとに、幕末日本の対外政策や自国民への対応など、近代国家成立前夜の日本の姿を論じた。現代に通じる国家の姿を見出した。 |
| 47. 「江戸時代の文化と庶民の力」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2010年11月 | 江戸時代初期から中期にかけての上方文化の担い手のうち、俳諧や医業に伊丹市域に関係する人々の多いことから、同市域が上方文化の基盤であり、中後期の江戸文化にも大きな影響を与えたことを論じた。 |
| 48. 「ここまでわかってきた歴史的事実」（於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ） | 2010年11月 | NHK大河ドラマのDVDを見ながら、歴史研究の成果が映像にどれだけ反映されているのかを確認した。都市の姿や建築物、処刑など文献研究や考古学研究成果の一部採用されていることを確認した。 |
| 49. 「町の成立と人々の生活」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2010年11月 | 戦国時代から江戸時代初期への展開の指標のひとつに「町」の成立がある。伊丹市域における在郷町の成立と発展は、酒造業や流通、文化などを牽引した人々の日常生活にあったことを論じた。 |
| 50. 「『本能寺の変』と明智光秀」（於：神戸シニアカレッジ） | 2010年10月 | 本能寺の変は、明智光秀の怨恨が原因であったとの説が支配的であったが、この理解は確実な史料からは成立しないことを論じたうえで、変の背景に將軍足利義昭をはじめとする諸勢力の存在があり、光秀はその一コマであったことを一次史料に基づいて論じた。 |
| 51. 「再現『本能寺の変』」（於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ） | 2010年10月 | NHK大河ドラマで描かれた事柄について、研究成果がどれだけ反映されているのかを実際にDVDを見ながら解説を加えた。「本能寺の変」は、ほぼ光秀怨恨説で描かれており、放送時点での最新の研究成果は反映されていないことがわかった。 |
| 52. 「近代現代伊丹の文化」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2009年12月 | 伊丹市域における文化的側面について、酒造業、金属加工、教育制度、俳諧などを事例として取り上げ、近代化の過程で発展し、現代社会にも通底する伊丹市の特質について論じた。 |
| 53. 「日本近代化と伊丹」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2009年11月 | 日本社会の近代化の動向と、伊丹市域の近代化との関係について、伊丹市域の特産や産業に着目して論じ、現在の繁栄の起源に迫った。 |
| 54. 「細川ガラシャーキリシタン女性の生き方」（於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ） | 2009年11月 | 波乱の人生を送った細川ガラシャを素材に、戦国時代の女性の生き方や価値観、思想に迫った。キリシタンとして生と死のはざままで苦悩するも、家のために潔い死を選んだ生き方について論じた。 |
| 55. 「人物から知る伊丹歴史学」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2009年11月～2009年12月 | 古代から近世までの伊丹市域に関係する人々の事跡を、日本の歴史と連動させて取り上げることで、一地域史に限定されない地域社会像を提示し、その理解を深めた。 |
| 56. 「近代伊丹と社会の様子」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2009年11月 | 明治維新以後、日本は国際社会のなかで、対外戦争も辞さず自らの位置づけを模索し、発展してきた。しかしこの発展の背景には膨大な国民の負担や犠牲、努力があったことを伊丹市域の事例を用いて解説した。 |
| 57. 「細川忠興ー戦国人の処世術」（於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ） | 2009年10月 | 近世細川家の祖となった忠興の個性や生き方を追うことで、戦国時代末期から江戸時代初期を生き抜いた大名の処世術について論じた。 |
| 58. 「古文書から読み解く日本中世文化ー絵巻物編ー」（於：伊丹市立ラスタホール） | 2008年5月 | 『一遍上人絵伝』や『餓鬼草子』、『病草子』などの絵巻物に描かれた画像を見、詞書を読みながら、中世社会に生きた人々の文化や風俗、精神性などについて考察した。あわせて現代社会と比較しながら、当時の社会についての理解を深めた。 |
| 59. 「能吏明智光秀の苦悩」（於：奈良ニッセイエ | 2008年11月 | 本能寺の変の原因を探る連続講座。変の背景に將軍足 |

| 職務上の実績に関する事項 | | |
|---|-------------------|---|
| 事項 | 年月日 | 概要 |
| 4 その他 | | |
| デンの園ふれあいプラザ) | | 利義昭をはじめとする諸勢力の存在があり、光秀はそのコマであったとの理解を一次史料に基づいて論じた。 |
| 60. 「信長を怒らせた光秀の饗応」 (於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ) | 2008年10月 | 本能寺の変の原因を探る連続講座。通説として根強い明智光秀の怨恨説が、確実な史料からは成立しないことを論じ、確実な史実に基づく立論の必要性を強調した。 |
| 61. “・「筒井順慶と統一政権」 (於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ) | 2008年1月 | 戦国期に大和国を支配した筒井順慶の動向を、織田信長らの天下統一事業とのかかわりから整理し、地域社会に根ざした権力が、統一政権のコマとして機能する段階へ移行するありさまを論じた。 |
| 62. “・「古文書を読む―ステップアップ編―」 (於：伊丹市立ラスタホール) | 2007年4月～2007年7月 | 伊丹市立生涯学習センター・ラスタホールでの古文書講座。2006年度の「はじめての古文書」受講者を中心とする古文書読解のレベルアップ講座。市域周辺の近世文書や記録史料などをテキストとして用いる。期間と回数を増やし、受講者自身が解説したレジュメを準備してもらうことで、受講者のレベルアップを図るようにした。 |
| 63. 「古文書でよみとく伊丹」 (於：伊丹市立ラスタホール) | 2007年11月 | 中世後期から近世にかけての古文書を読むことで、伊丹市域における地域の歴史とその特質について理解できるように努めた。 |
| 64. “・「初めて写真に写った日本人」 (於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ) | 2007年10月 | 日本人として初めて写真に写った幕末漂流民の漂流から帰国までの記録を追うことで、幕末日本の対外政策や自国民への対応など、近代国家成立前夜の日本の姿を論じた。 |
| 65. 「戦国時代の表と裏」 (於：奈良ニッセイエデンの園ふれあいプラザ) | 2007年1月 | 歴史上に名前を遺す有名人ではない一般民衆の生活（情報交換や健康管理など）から、戦国時代の人々の生活について論じた。 |
| 66. “・「はじめての古文書 中世文書編」 (於：伊丹市立ラスタホール) | 2006年5月～2006年6月 | 伊丹市立生涯学習センター・ラスタホールでの古文書講座。伊丹市域、および周辺地域に残る中世文書をテキストとして用い、その読解の基礎を学ぶ。 |
| 67. 「はじめての古文書 近世文書編」 (於：伊丹市立ラスタホール) | 2006年10月～2006年12月 | 伊丹市立生涯学習センター・ラスタホールでの古文書講座。伊丹市域に残る近世文書をテキストとして用い、その読解の基礎を学ぶ。 |
| 68. 「豊中の古文書を読む」 (於：豊中市立蜷池公民館) | 2005年10月 | 豊中市域に現存する古文書を用いて古文書読解を学ぶ市民講座。古文書の読解とともに歴史や文化について解説を加え、地域社会の歴史像を描き出すことに努めた。 |

| 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---------------------|---------|-----------|-------------------|--|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
| 1 著書 | | | | |
| 1. 『戦国・織豊期の西国社会』 | 共 | 2012年10月 | 日本史史料研究会 | 戦国・織豊期の政治・社会・文化等の諸側面について、西国地域に特化して論じた論集。「地域支配における室町幕府一守護体制とその変質について―細川京兆家分国讃岐国を素材に―」の執筆とともに、編集を担当。共著者：天野忠幸・安藤弥・大駕聖子・岡田謙一・小川雄・片山正彦・金子拓・川戸貴史・神田裕里・古野貢、他22名。 |
| 2. 『中世後期細川氏の権力構造』 | 単 | 2008年12月 | 吉川弘文館 | 学位論文を基にした単著。中世後期、室町幕府一守護体制のもとで有力な地位を築き、同体制を支えつつも最終的に解体へ導いた細川氏の権力構造を明らかにした。幕府一守護体制を、守護合議によって運営される「前期」から、細川氏がほぼ単独で幕政を担う「後期」に整理し、これを可能とした細川氏の権力構造を「京兆家一内衆体制」と規定した。細川氏権力は内衆の編成とその結合によって維持された権力であって専制権力ではなく、幕府一守護体制の存続は細川氏内衆の把握に帰結すると論じた。344頁。 |
| 3. 『戦国期畿内の政治社会構造』 | 共 | 2006年5月 | 和泉書院 | 戦国期畿内、特に和泉国の位置づけを検討するために編まれた論集。古野は、15世紀中葉以降の畿内政治史研究の動向を整理しつつ、制度史的研究と領主制論との整合的理解の必要性を論じた「戦国期畿内の権力論研究」（13～22頁）と、和泉国の特質をふまえながら細川氏庶流守護家の権力構造とその展開を論じた「細川氏庶流守護家の権力構造」（37～64頁）を執筆と、全体の編集を担当した。（共著者：廣田浩治・古野貢・森田恭二・岡田謙一・山中吾朗・大利直美・坂本亮太・宮田克成・田中慶治・弓倉弘年・天野忠幸・藤田達生） |
| 2 学位論文 | | | | |
| 1. 「中世後期細川氏権力構造の研究」 | 単 | 2006年3月 | 大阪市立大学 | 中世後期、室町幕府一守護体制のもとで有力な地位を築き、同体制を支えながらも最終的に解体へ導いた細川氏の権力構造を明らかにした。幕府一守護 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|-----------|-------------------------|--|
| 2 学位論文 | | | | |
| | | | | 体制を守護合議に基づいて運営される「前期」と、細川氏など特定の守護主導で運営される「後期」とに整理し、「前期」から「後期」へ展開させた細川氏に特徴的な権力構造を「京兆家－内衆体制」と位置づけた。(398頁)。 |
| 3 学術論文 | | | | |
| 1. 「中世後期守護研究の現在」 | 単 | 2017年3月 | 『十六世紀史論叢』8号、(十六世紀史研究学会) | 近年研究が蓄積されてきた中世後期守護について、研究史を整理したうえで、課題についてまとめた。現在の研究の方向が、かつての仮題を克服しないままに進められていることを指摘した。(101～124頁)。 |
| 2. 「信長の「天下」は日本全国を指すのか」 | 単 | 2016年10月 | 『戦国史の俗説を覆す』(柏書房) | 天下統一など、一般的に無制限に用いられている織田信長の「天下」用語について、文書発給の検証等を通じ、適用範囲やその意思が限定的であることを先行研究を踏まえて確認した。(44～58頁) |
| 3. 「畿内近国の大名と盟約」 | 単 | 2015年10月 | 『生活と文化の歴史学6 契約・誓約・盟約』 | 中世後期の畿内近国に展開した権力が、自らの存立と領域支配のために周辺諸勢力と取り結んだ関係を「法」として整理し、当該期他地域の諸権力との比較検討する道筋を示した。(331～352頁)。 |
| 4. 「阿波守護細川氏と三好氏」 | 単 | 2013年7月 | 『三好長慶』 | 天野忠幸・今谷明編『三好長慶』収載論文。三好氏は阿波守護細川氏被官から台頭するが、これがなぜ可能であったのかについて、背景と動向から検討し、のちの三好氏発展の源流を追究した。(20～31頁)。 |
| 5. 「三好元長の動向」 | 単 | 2013年7月 | 『三好長慶』 | 天野忠幸・今谷明編『三好長慶』収載論文。三好元長に着目してその動向を跡づけ、後の三好氏台頭の基盤を作った存在形態を論じた。(32～45頁)。 |
| 6. 「守護権力論からみた岸和田城・岸和田古城」 | 単 | 2013年4月 | 『ヒストリア』237号 | 岸和田古城の調査と、それに連続する保存運動の過程で刊行された『岸和田古城と城下町』(和泉書院刊)の書評研究会をもとにした特集。中世から近世にかけての城郭の移動、結合する諸勢力の動向について、守護権力論の立場から整理した。(38～47頁)。 |
| 7. 「細川氏内衆の存在形態」 | 単 | 2013年11月 | 『地域史研究』113号 | 現在京都大学所蔵の宝珠院文書は、長洲莊など、尼崎市域にかかわる史料である。この史料についての共同研究。細川京兆家内衆で、摂津守護代を務めた薬師寺氏の存在形態を明らかにした。(5～9頁)。 |
| 8. 「『史敏』の「政基公旅引付」研究論文を読む②」 | 共 | 2012年11月 | 『史敏』10号 | 大阪大学日本史研究室と泉佐野市史関係者によって、共通の研究対象である「政基公旅引付」の解釈や評価をめぐる合同研究会が開催されている。そこでの議論を踏まえ、市史作成側の立場から、『史敏』に掲載された論文への反批判論文。共著者：廣田浩治、古野貢。(107～122頁)。 |
| 9. 「地域支配における室町幕府－守護体制とその変質について－細川京兆家分国讃岐国を素材に－」 | 単 | 2012年10月 | 『戦国・織豊期の西国社会』(日本史史料研究会) | 細川京兆家分国讃岐国を対象に、守護支配の消長と地域支配との連関について論じた。室町幕府－守護体制下の細川氏支配によって制御されていた讃岐国は、細川氏の没落とそれに伴う幕府－守護体制の解体に連動することで、制度的規制がかからない段階へ移行したことを具体的に論じた(253～279頁)。 |
| 10. 「細川氏研究と『細川両家記』」 | 単 | 2010年3月 | 『都市文化研究』12号 | 戦国期畿内政治史を検討する際に多用される『細川両家記』について、記述内容(事実確認)、考古学、国語学など隣接分野からの検討、書誌学的検討などを通して、当該期を考察するテキストとしての妥当性を検討したシンポジウムの成果。細川氏にかかわる記述の妥当性と問題点について指摘した。(162～163頁) |
| 11. 「室町幕府－守護体制下の分国支配構造－細川京兆家分国丹波国を事例に－」 | 単 | 2009年5月 | 『市大日本史』12号 | 細川京兆家の分国支配の特質について、これまで検討が進んでいなかった丹波国を対象に分析した。同国は京都・山城国に隣接し、摂津国と同様細川京兆家にとって重要な分国であったが、16世紀に至るまで京都に近い丹波地域にしか支配権を及ぼすことができず、奥丹波地域は細川氏権力とは異なる論理で支配が行われていたと論じた。(57～85頁)。 |
| 12. 「中世後期の武家権力と都市」 | 単 | 2009年3月 | 『都市文化研究』11号 | 中世後期の武家権力と都市との関わりを検討することで、当該期武家権力の特質を展望した。近年の都市史研究(特に守護所研究)の進展により、全国を同じ基準で検討する研究状況が整いつつある。今後はその成果や隣接諸分野との協業、個々の対象に対する研究の深化が当該期武家権力の特質を解明する有効な方法論であることを指摘した。(67～71頁)。 |
| 13. 「中世後期における地域支配権力の転回－細川氏分国備中国を素材」 | 単 | 2007年3月 | 『吉備地方文化研究』17号 | 16世紀以降、備中国支配の主導権を庄氏に奪取された細川氏権力は、京兆家(惣領家)の分家である |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|----------------------------|-------------|---------------|--|---|
| 3 学術論文 | | | | |
| にー」 | | | | |
| 14. 「中世後期摂津における細川氏の権力構造」 | 単 | 2007年3月 | 『地域研究いたみ』36号 | 野州家当主を派遣するなど回復を目指す果たせず、野州家自体も戦国期大名権力である毛利氏に服属する。守護細川氏による分国備中国の支配が失われ、地域支配の権力構造が大きく転換したことを明らかにした。(29～62頁)。 細川氏にとって最も重要で、京兆家分国であった摂津国を対象とし、京兆家とその内衆を中心に構造的・地域的に広がる権力構造を明らかにした。細川氏は畿内分国で流通・経済拠点を押さえることを支配方針としていたが、摂津国ではそれに加え、伊丹氏などの国人を編成し、領域支配に関わる部分を担当させていたことを論じた。(1～34頁)。 |
| 15. 「細川氏庶流守護家の権力構造」 | 単 | 2006年5月 | 『戦国期畿内の政治社会構造』(和泉書院) | 細川氏守護分国である和泉国を素材に、庶流である和泉守護家の両守護制(同一国に二人の守護が同一権限を持ちながら並立する)という同国の特質をふまえながら、そこで形成された在地支配構造とその歴史的展開について論じた。特に国内支配の危機に対応して作成された「六日番交名」の構成員と守護細川氏との関係も明らかにした。(37～64頁)。 |
| 16. 「戦国期畿内の権力論研究」 | 単 | 2006年5月 | 『戦国期畿内の政治社会構造』(和泉書院) | 戦国期畿内、特に和泉国の位置づけを検討するために編まれた論集の序論の一部。近年の戦国期畿内権力論研究について、15世紀中葉以降畿内政治史研究の進展状況を示したうえで、室町幕府一守護体制にかかわる制度史的研究と、戦国期大名論に収斂する領主制研究とを同一組上で検討する必要性を述べた。(13～22頁)。 |
| 17. 「細川氏権力と港湾都市」 | 単 | 2006年3月 | 『難波宮から大坂へ』(和泉書院) | 中世後期に権力化を遂げた細川氏権力の基盤を、畿内に位置する分国内の諸拠点支配にあると設定し、その代表例として堺・兵庫を対象に検討した。その結果、細川氏は領主的領域支配ではなく、内衆を代官に任命して流通・経済拠点を把握するという点・線の支配がその基盤であったことを明らかにした。(191～212頁)。 |
| 18. 「室町幕府一守護体制と細川氏権力」 | 単 | 2005年2月 | 『日本史研究』510号 | 細川氏権力が中世後期の政治構造のなかで果たした役割と、その構造的展開について論じた。従来専制権力とされてきた細川氏権力は、被官である内衆の合議と統合によって維持されており、領域支配を貫徹出来ない存在であった。この権力的あり方が当該期の室町幕府一守護体制を強く規制していたことを示し、内衆の解体が細川氏権力と幕府一守護体制自体の解体につながるとし、のちの三好氏との権力的段階差にも言及した。(32～55頁)。 |
| 19. 「細川氏による摂津・和泉の流通・都市の把握」 | 単 | 2004年3月 | 『難波宮から大坂へー上町台地の新しい歴史像を探るー』(大阪市立大学都市文化研究センター) | 古代から中世にかけての、大阪を中心とする畿内都市の位置づけを検討したシンポジウム(大阪市立大学大学院都市文化研究センター主催)の成果論集。中世後期段階で細川氏が畿内地域で権力的に優越する過程で採用した瀬戸内流通・港湾都市の把握について、兵庫・堺を素材に概観した。(109～117頁)。 |
| 20. 「細川氏内衆庄氏の展開と地域支配」 | 単 | 2003年5月 | 『年報中世史研究』27号 | 備中国に本拠を持つ細川氏内衆である庄氏に着目し、その存在形態と歴史的展開を分析した。庄氏に代表される細川氏内衆は、諸家が分立し、細川氏各分国で守護代や都市代官などのさまざまな機能を果たした。15世紀中葉以降の畿内政治構造における細川氏権力を規制する要因として、このような内衆を権力基盤としたことを明らかにした。(137～157頁)。 |
| 21. 「中世後期地域支配権力論研究の視角」 | 単 | 2002年5月 | 『市大日本史』6号 | 中世後期の地域支配に関する研究動向をまとめ、室町幕府一守護体制論に代表される制度史的研究と、戦国期大名権力論研究に代表される領主制論の二つの研究潮流をいかに統合するかという、今後の研究に向けての視角を提示した。(107～121頁)。 |
| 22. 「中世後期の地域支配と守護権力」 | 単 | 2000年1月 | 『ヒストリア』168号 | 備中国を対象に、14世紀から16世紀までの細川氏の分国支配のあり方について検討した。同国に関わる京兆家・備中守護家・野州家は、それぞれ一宮(吉備津神社)や惣社などの国内祭祀施設の利用や在地国人の編成、分郡(浅口郡)支配など、異なる方法で地域支配を行っていたことを明らかにした。(32～56頁)。 |
| その他 | | | | |
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 1. 「守護権力論からみた岸和田城・岸和田古城」 | 単 | 2012年9月 | 大阪歴史学会例会 | 岸和田古城の調査と、それに連続する保存運動の過程で刊行された『岸和田古城と城下町』(和泉書 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|---------------------------------|---------|-------------|---|---|
| 1. 学会ゲストスピーカー | | | | |
| 2. 「コメント：末柄・萩原報告についてのコメント」 | 単 | 2011年6月 | 2011年度大阪歴史学会大会中世史部会（於：神戸大学） | 院刊)の大阪歴史学会での書評研究会での報告。中世から近世にかけての城郭の移動、結合する諸勢力の動向などについて、守護権力論の立場から整理した。 2011年度大阪歴史学会大会中世史部会報告、末柄豊「禁裏文書にみる室町幕府と朝廷」、萩原大輔「足利義尹政権考」について、両者に共通する論点（室町幕府の機能）を明らかにしたうえで、個々の実証や議論についての疑問を示し、討論への切り口を提示した。 |
| 2. 学会発表 | | | | |
| 1. 「細川氏権力と内衆一分国丹波を中心に」 | 単 | 2008年5月 | 第11回大阪市立大学日本史学会大会報告（於：大阪市立大学） | 室町幕府－守護体制下における分国支配のあり方とその変質の意義を、細川氏の分国丹波国を対象に検討した。領域支配を志向しなかった細川氏権力は、逆に在地勢力の自立化動向などに常に規制を受ける構造を持っていたことを指摘した。 |
| 2. 「室町幕府－守護体制と細川氏権力」 | 単 | 2004年10月 | 2004年度日本史研究会大会中世史部会共同研究報告（於：佛教大学） | 細川氏権力が中世後期の政治構造のなかで果たした役割と、その構造的特質について検討した。細川氏権力は被官である内衆の合議と統合によって維持されており、領域支配を貫徹できない存在であったことを明らかにした。またこの存在形態が当該期室町幕府－守護体制を規制していたことを示し、内衆の解体が細川氏権力と幕府－守護体制の解体につながるとした。また三好氏権力との権力的段階差についても言及した。報告要旨は『日本史研究』505号、9～11頁に掲載。 |
| 3. 「中世後期の地域支配と守護権力」 | 単 | 1999年6月 | 1999年度大阪歴史学会大会中世史部会報告（於：大阪市立大学） | 備中国を対象に、16世紀までの細川氏の分国支配について検討した。一宮や惣社などの国内祭祀施設の利用、在地国人の編成、分郡知行など、同国では細川諸家がそれぞれ異なる方法で支配を行っていた事を明らかにし、細川氏の分国支配の一端を示した。報告要旨は『ヒストリア』165号、95～97頁に掲載。 |
| 3. 総説 | | | | |
| 1. 「回顧と展望：室町期の政治・権力と室町幕府」 | 共 | 2005年5月 | 『史学雑誌』114巻5号 | 『史学雑誌』による2004年の歴史学界の成果についての回顧と展望。日本中世の「室町期の政治・権力と戦国期幕府」を担当。同年にこの分野で発表された約30点の著書・論文の評価を研究史への位置づけを行う。(82～84頁)。 |
| 4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績 | | | | |
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 1. 文書調査の現場にて | 共 | 2016年5月 | 『日本史のまめまめしい知識』第1巻(岩田書院) | かつて、日本史研究者として史料調査の現場に立った際に経験したこと、感じたことを論じた。(236～240頁)。 |
| 2. 悪党の時代－垂水西牧の悪党－ | 共 | 2016年12月31日 | ふるさとを知らう 摂津市の歴史(摂津市) | 摂津市市政施行50周年記念誌。市域で活動していた悪党についてわかりやすく改札した。16-17頁 |
| 3. 嘉吉の乱と崇禅寺領 | 共 | 2016年12月31日 | ふるさとを知らう 摂津市の歴史(摂津市) | 摂津市市制施行50周年記念誌。市域に存在する崇禅寺領に注目し、歴史上の事件との関連性をわかりやすく解説した。18-19頁。 |
| 4. 「日本の生活と文化X」 | 単 | 2015年6月 | 『2015年度武庫川女子大学資料館春季展パンフレット』(武庫川女子大学附属総合ミュージアム設置準備室) | 2015年度春季展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 5. 「女性ノ生活」 | 単 | 2013年6月 | 『2013年度武庫川女子大学資料館春季展パンフレット』(武庫川女子大学資料館) | 2013年度春季展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 6. 『和泉市の考古・古代・中世』 | 共 | 2013年3月 | 和泉市 | 大阪府和泉市域の政治・社会・文化等の歴史的諸側面について、執筆者ごとに設定されたテーマで論述。「和泉の戦乱と政治」を執筆。共著者：石部正志・乾哲也・広瀬和雄・千葉太朗・白石耕治・岸本直文・柴原永遠男・遠藤慶太・中林隆之・古野貢、他10名。 |
| 7. 『中世後期守護権力構造の史料学的研究』 | 共 | 2013年3月 | 科学研究費研究成果報告書(研究代表者) | 科学研究費(基盤研究(C)22520698「中世後期守護権力構造の史料学的研究」2010～12年度)による、守護受発給文書の調査報告書。ス波氏・京極氏・上杉氏・一色氏を対象とした。総論と解題、研究期間内に開催したシンポジウム記録の執筆、および編集を行った。共著者：古野貢・川岡勉・小谷利明・岡田謙一の4名。 |
| 8. 「観る書道史」 | 単 | 2013年2月 | 『2012年度武庫川女子大学資料館特別展パン | 2012年度特別展パンフレット。 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|------------------------------------|---------|-----------|--|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 9. 「館蔵絵画展～春・夏～」 | 単 | 2012年7月 | フレット』（武庫川女子大学資料館） 『2012年度武庫川女子大学資料館春季展パンフレット』（武庫川女子大学資料館） | 2012年度春季展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 10. 「新収蔵資料展」 | 単 | 2011年6月 | 『2011年度武庫川女子大学資料館春季展パンフレット』（武庫川女子大学資料館） | 2011年度春季展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 11. 『伊賀市史 第1巻 通史編 古代・中世』 | 共 | 2011年3月 | 伊賀市 | 三重県伊賀市域の古代から中世にかけての歴史叙述。室町時代の幕府・守護、および荘園について論じた「幕府と守護」（599～616頁）、「中世荘園の終焉」（636～640頁）、戦国時代の伊賀国内の争乱について論じた「戦国の争乱と伊賀－伊賀衆の活躍－」（742～759頁）を執筆した。（共著者：伊藤真昭・白川哲郎・西村さとみ・冢塚智子・伊藤裕偉・榎村寛之・大田壮一郎・川合康・熊谷隆之・小濱学・小原嘉記・狭川真一・鈴木明子・瀧川和也・竹本晃・田中大介・礪波恵昭・福田典明・藤田達生・古野貢・穂積裕昌・松永和浩・村田修三・森勇一・森田竜雄・山田猛・山近久美子・米田真理子） |
| 12. 「史料紹介：『赤松家播備作城記』」 | 単 | 2011年3月 | 『武庫川女子大学資料館紀要』5（武庫川女子大学資料館） | 元禄年間に集成された、播磨・備前・美作の赤松氏関係城郭を書きあげた史料。愛知県鶴舞図書館の蔵本を底本に翻刻・紹介した。（16～66頁）。 |
| 13. 「上方役者絵コレクション」 | 単 | 2010年6月 | 『2010年度武庫川女子大学資料館春季展展示図録』（武庫川女子大学資料館） | 『2010年度春季展図録。大学付属図書館蔵の「上方役者絵」のコレクション30点余りを、資料館春季展として展示した。 |
| 14. 「史料紹介：『漂流異話』」 | 単 | 2010年3月 | 『武庫川女子大学資料館紀要』4（武庫川女子大学資料館） | 江戸時代末に漂流してアメリカ船に救助され、帰国したのちに記された漂流記の翻刻。（31～45頁）。 |
| 15. 「日本の生活文化」 | 単 | 2010年12月 | 『2010年度武庫川女子大学資料館特別展パンフレット』（武庫川女子大学資料館） | 『2010年度特別展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 16. 「公江喜市郎先生の書」 | 単 | 2009年6月 | 『2009年度武庫川女子大学資料館特別展展示図録』（武庫川女子大学資料館） | 『2009年度特別展図録。校祖公江喜市郎先生の書、10数点を一堂に集めて展示した。 |
| 17. 「史料紹介：『東西異聞』（下）」 | 単 | 2009年3月 | 『武庫川女子大学資料館紀要』3（武庫川女子大学資料館） | 江戸時代末に漂流してアメリカ船に救助され、帰国したのちに記された漂流記の翻刻。（14～38頁）。 |
| 18. 『新修豊中市史 第1巻 通史編』 | 共 | 2009年2月 | 豊中市 | 大阪府豊中市域の政治・社会・文化等の諸側面について考古から近世まで通史的に論じる。市域に所在した春日社領荘園垂水西牧の成立と展開について論じた「中世前期社会の様相」（255～305頁）と、15世紀中葉以降の政治・社会の変質と近世社会への見通しを論じた「中世後期社会の展開」（389～448頁）を執筆した。（共著者：泉拓良・藤田憲司・柳本照男・西本昌弘・金田章裕・宇野隆夫・前田徹・小山靖憲・田中文英・古野貢・志賀節子・村田路人・松迫寿代・木下光生・山口佳代子） |
| 19. 「日本の生活と文化」 | 単 | 2009年12月 | 『2009年度武庫川女子大学資料館特別展パンフレット』（武庫川女子大学資料館） | 『2009年度特別展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。 |
| 20. 「史料研究『兼仲卿記』紙背文書 正応元年2・4・5・6月巻」 | 共 | 2009年12月 | 『国立歴史民俗博物館研究報告』153号 | 『鎌倉遺文』に一部翻刻されている『兼仲卿記』の紙背文書について、実見による確認を踏まえ、テキスト化を行った。 |
| 21. 「くらしのなかの儀礼文化と装い」 | 単 | 2009年10月 | 『2009年度武庫川女子大学資料館秋季展パンフレット』（武庫川女子大学資料館） | 『2009年度春季展パンフレット。日常生活のなかで用いられる着物資料を素材として、さまざまな儀礼時での装いについて考察し、展示した。 |
| 22. 『図説 井原・笠岡・浅口の歴史』 | 共 | 2009年1月 | 郷土出版社 | 岡山県南西部に位置する井原・笠岡・浅口地域の歴史を、多くの図版と解説で説明。備中における守護権力の展開を論じた「備中国と細川氏」（78・79頁）、戦国期への展開に河川をはじめとする経済・流通の争奪が存在していたことを論じた「備中大合戦と小田川流域流通」（80・81頁）を執筆した。（共著者：太田健一・小野敏也・坂本忠次・坂本昇・佐藤寛介・重見之雄・首藤ゆきえ・辰田芳雄・難波 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・ 共著書別 | 発行又は 発表の年月 | 発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称 | 概要 |
|---------------------------------|-------------|---------------|--|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 23. 「細川氏研究と『細川両家記』」 | 単 | 2009年1月 | "大阪市立大学都市文化研究センタードクター研究員プロジェクトシンポジウム『戦国期畿内研究と『細川両家記』』(於：大阪市立大学)" | 俊成・森山上志・安東康宏・上田賢一・大島千鶴・片岡良仁・苅米一志・河本清・木下浩・金光英子・小椋美紀・定兼学・塩田宏之・高田知樹・徳永裕之・鳥越昌・中田利枝子・中山薫・西野望・畑和良・福尾美夜・古野貢・別府信吾・森俊弘・森文忠・森脇崇文・山田保・横山定・渡部祐子・渡邊大門) 中世後期の畿内政治史研究において、『細川両家記』が果たしてきた役割と課題について検討した。当該期畿内は『両家記』の記述により、「『両家記』史観」によってモデル化されたと評価されてきた。しかし記述内容の検討により、結果論的記述、ローカルな視野、限定された情報による記述を過大評価したものといえる。個別に進展しつつある都市史、寺社権力論、公家論、將軍権力論、考古学や書誌学等との有機的連携を深め、当該期社会像の構築を行うことが課題としてあげられた。 |
| 24. 「伊藤太一の版画でみる播磨」 | 単 | 2008年6月 | 『2008年度武庫川女子大学資料館春季展示図録』(武庫川女子大学資料館) | "2008年度春季展図録。兵庫県在住の版画作家伊藤太一の作品に描かれた景観、祭りなどから播磨の姿を見直す。" |
| 25. 「史料紹介：『東西異聞』(中)」 | 単 | 2008年3月 | 『武庫川女子大学資料館紀要』2(武庫川女子大学資料館) | 江戸時代末に漂流してアメリカ船に救助され、帰国したのちに記された漂流記の翻刻。(21～54頁)。 |
| 26. 『伊賀市史 第4巻 資料編 古代・中世』 | 共 | 2008年3月 | 伊賀市 | 三重県伊賀市域にかかわる古代中世史料集。「編年史料」・「記録史料」のうち、「編年史料」の15世紀中葉から16世紀中葉まで(696～759頁)の史料本文・解説・網文の執筆を担当。(共著者：西村さとみ・田中大介・熊谷隆之・伊藤真昭・古野貢・白川哲郎・大田壮一郎・笠井賢治) |
| 27. 『新修泉佐野市史1 通史編 自然～中世』 | 共 | 2008年3月 | 泉佐野市 | 大阪府泉佐野市の自然、考古から中世にかけての歴史叙述。通史編とするが、内容は執筆者ごとに設定されたテーマ別記述。戦国期の泉佐野市域における守護や国衆の活動について論じた「戦国期の守護と国衆」(467～502頁)を執筆した。(共著者：大野薫・石部正志・堀江門也・鈴木陽一・森昌俊・遠藤慶太・栄原永遠男・元木泰雄・坂本亮太・吉井敏幸・山中吾朗・廣田浩治・古野貢・村井良介・大澤研一) |
| 28. 「ニッポンの生活文化」 | 単 | 2008年12月 | 『2008年度武庫川女子大学資料館特別展パンフレット』(武庫川女子大学資料館) | "2008年度特別展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。" |
| 29. 「館蔵絵画展～秋～」 | 単 | 2008年10月 | 『2008年度武庫川女子大学資料館秋季展示図録』(武庫川女子大学資料館) | "2008年度秋季展図録。資料館蔵の絵画から、秋を主題に描かれた作品を展示した。" |
| 30. 「富松城があった当時の戦い」 | 共 | 2007年6月 | 『もっと知りたい中世の富松城と富松』(富松城を活かすまちづくり委員会) | 兵庫県尼崎市に所在する富松城跡を活かしたまちづくりを目指す地元住民による冊子への寄稿。16世紀、富松城が関わった戦闘について、史料・記録から解説を加えた。(23～25頁)。 |
| 31. 「近代黎明期の教育」 | 単 | 2007年5月 | 『2007年度武庫川女子大学資料館春季展パンフレット』(武庫川女子大学資料館) | "2007年度春季展パンフレット。文書資料や教科書などを用い、近代黎明期の教育制度について展示した。" |
| 32. 「史料紹介：『東西異聞』(上)」 | 単 | 2007年3月 | 『武庫川女子大学資料館紀要』1(武庫川女子大学資料館) | 江戸時代末に漂流してアメリカ船に救助され、帰国したのちに記された漂流記の翻刻。(30～36頁)。 |
| 33. 「日本の生活と文化」 | 単 | 2007年12月 | 『2007年度武庫川女子大学資料館特別展パンフレット』(武庫川女子大学資料館) | "2007年度特別展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。" |
| 34. 「貸付と融通一村の金融事情」 | 共 | 2006年3月 | 『文化財ニュース』33号(豊中市) | 豊中市教育委員会発行の市域文化財にかかわる啓発・情報誌。市内で新たに発見され、市所蔵とした近世文書を素材に、江戸時代の村野有力者が行っていた金融活動が単なる利殖行為ではなく、村の構成員の維持や発展を目指したものであったことを指摘した。(3～5頁)。 |
| 35. 「日本の文化と現代」 | 単 | 2006年12月 | 『2006年度武庫川女子大学資料館特別展パンフレット』(武庫川女子大学資料館) | "2006年度特別展パンフレット。博物館学芸員資格受講者による展示。" |
| 36. 「紙の宝石―蔵書票展―」 | 単 | 2006年10月 | 『2006年度武庫川女子大学資料館秋季展示図録』(武庫川女子大学資料館) | "2006年度秋季展示図録。コレクター、作家から借用した蔵書票(書籍の裏表紙などに添付する蔵書印に代わる紙片。所蔵者の個性や希望に沿ったデザインを版画で表現したもの)数百点を展示した際の図 |

研究業績等に関する事項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著書別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は学会等の名称 | 概要 |
|------------------------------------|-----------|-----------------|--|---|
| 5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等 | | | | |
| 37. 『近江愛知川町の歴史1 古代・中世編』 | 共 | 2005年12月 | 愛知川町 | 録。 滋賀県愛知川町（現愛荘町）の古代から中世にかけての歴史叙述（通史編）。湖南地域における政治・社会・文化等の諸側面について、通史的に論じる。室町期から戦国期の近江の守護支配についてまとめた「近江守護佐々木氏の盛衰」（456～485頁）と、現地で行った荘園故地調査の成果「荘園と村落」（492～507頁）を担当した。（共著者：小笠原好彦・瀬口真司・近藤広・宮崎幹也・大橋信弥・京樂真帆子・桜井真也・造酒豊・宇佐見隆之・下坂守・古野貢・福持昌之・中井均・河内将芳・松岡久美子・佐々木進・西田紀子・松下浩） |
| 38. 『新修泉佐野市史4 史料編 古代・中世Ⅰ』 | 共 | 2004年3月 | 泉佐野市 | 大阪府泉佐野市域にかかわる古代・中世史料集。中世を「鎌倉」・「南北朝」・「南北朝」・「戦国前期」・「戦国中期」・「戦国後期」・「織豊期」に分けて、文書・記録史料を収載。「戦国中期」（612～697頁）の史料本文・解説・網文の執筆を担当した。（共著者：栄原永遠男・小山靖憲・元木泰雄・藤田達生・森田恭二・吉井敏幸・遠藤慶太・唐沢寛・田中久美・横澤大典・大澤研一・古野貢・山中吾朗・大川直美・坂本亮太・村井良介・近藤孝敏・羽田真也・廣田浩治・宮田克成・森昌俊） |
| 39. 『春日大社南郷目代 今西家文書』 | 共 | 2004年3月 | 豊中市 | 鎌倉時代末期より春日社領撰津国垂水西牧（豊中市・吹田市の一部）の目代を務めた今西家に伝来した文書史料集。鎌倉末期から戦国期までの諸種の土地台帳のほか、近隣の国人からの書状、近世に作成された地誌も含む。北摂の在地・政治状況を明らかにすることができる一級史料。史料全点をカラー写真で撮影・収載した。史料翻刻・解説部分の99%（1～520頁、536～1251頁）の執筆と編集を行った。（共著者：末中哲夫・古野貢） |
| 40. 「細川氏による摂津・和泉の流通・都市の把握」 | 単 | 2004年2月 | “大阪市立大学大学院都市文化研究センターシンポジウム『難波宮から大坂へー上町大地の新しい歴史像をさぐるー』（於：大阪市立大学）” | 古代から中世における、大阪を中心とする畿内都市の位置づけを検討することを目的に開催されたシンポジウムでの報告。中世後期、細川氏が畿内地域で権力的に優越する過程で採用した、瀬戸内海・港湾都市の把握について、兵庫・堺を素材として概観した。細川氏は領域支配よりも都市・港湾などの拠点支配を重視していたことを論じた。 |
| 41. 「戦国末期の城・寺と村」 | 共 | 2003年3月 | 『文化財ニュース』31号（豊中市） | 豊中市教育委員会発行の文化財にかかわる啓発・情報誌。市域に所在する戦国期の城と真宗寺院、村を対照に、真宗寺院を核に結集し自立する村の姿を描き、統一権力による制圧という一面的理解を批判した。（7～10頁）。 |
| 42. 『日根野荘中世石造物調査報告書』 | 共 | 2001年3月 | 泉佐野市 | 国指定史跡日根野荘域に所在する石造物の悉皆調査報告書。「御所谷毘沙門堂」・「御所谷の奥」・「長福寺」を担当。石造物の拓本採集・写真撮影とともに、文献史料・地元住民からの聞き取り調査などの成果を踏まえたもの。（16～19頁）。 |
| 43. 『紀ノ川流域荘園詳細分布調査報告書Ⅰ 紀伊国隅田荘現況調査』 | 共 | 2001年3月 | 和歌山県 | 京奈和自動車道建設にともなう、紀ノ川流域に所在した荘園故地の調査報告書。高野山領隅田荘故地のうち、「中下地区」を担当し、灌漑水利・農業慣行・民俗慣行などを調査し、記録した。（70～77頁）。 |
| 44. 『新修泉佐野市史5 史料編 中世Ⅱ』 | 共 | 2001年3月 | 泉佐野市 | 15世紀末、現大阪府泉佐野市域に所在する日根荘に下向し荘園経営を行った九条政基の在荘日記『政基公旅引付』を一般市民の利用に供するために読み下し、詳細な頭注、200項目にわたる補注、参考資料の作成に執筆者として関わった。読み下し・頭注・補注とも、執筆者の共同作業のため、担当部分抽出不可能。（共著者：小山靖憲・藤田達生・森田恭二・吉井敏幸・梶木良夫・廣田浩治・古野貢・大川直美・近藤孝敏・宮田克成） |
| 6. 研究費の取得状況 | | | | |
| 1. 基盤（B） | 共 | 2015年4月～現在 | | 中世後期守護権力の構造に関する比較史科学的研究（研究分担者） |
| 2. 基盤研究（C） | | 2010年4月～2012年3月 | | 中世後期守護権力構造の史科学的研究 |
| 学会及び社会における活動等 | | | | |
| 年月日 | 事項 | | | |
| 1. 2015年4月～現在 | 摂津市史 執筆委員 | | | |
| 2. 2015年10月～現在 | 宮水学園 講師 | | | |

学会及び社会における活動等

| 年月日 | 事項 |
|----------------------|-----------------------------------|
| 3. 2013年7月～現在 | 毎日新聞文化センター 講師 |
| 4. 2012年5月～現在 | 大阪高齢者大学校 講師 |
| 5. 2010年4月～現在 | 神戸新聞文化センター 講師 |
| 6. 2010年10月～現在 | 兵庫県阪神シニアカレッジ 講師 |
| 7. 2008年11月～現在 | 和泉市史中世史部会 調査執筆委員 |
| 8. 2006年4月～現在 | 伊賀市史古代・中世部会 調査員 |
| 9. 2006年4月～現在 | 伊丹市立生涯学習センター・ラストホール 市民講座講師 |
| 10. 2004年4月～2011年3月 | 新修豊中市史中世史部会 執筆委員 |
| 11. 2004年4月～現在 | 岡山地方史研究会 会員 |
| 12. 2003年4月～現在 | 愛知川町史中世史部会 執筆委員 |
| 13. 2001年4月～現在 | 日本古文書学会 会員 |
| 14. 2001年4月～2009年12月 | 新修泉佐野市史中世史部会 調査員 |
| 15. 1999年4月～現在 | 織豊期研究会 会員 |
| 16. 1997年4月～現在 | 中世史研究会 会員 |
| 17. 1997年4月～現在 | 歴史学研究会 会員 |
| 18. 1994年4月～現在 | 大阪歴史学会 会員〈庶務委員 1998年6月～2000年6月〉 |
| 19. 1994年4月～現在 | 日本史研究会 会員〈編集委員 2013年10月～2015年10月〉 |
| 20. 1994年4月～現在 | 日本史研究会 会員〈研究委員 2000年11月～2002年11月〉 |
| 21. 1994年4月～現在 | 大阪歴史学会 〈編集委員 2007年6月～2009年6月〉 |